

国立研究開発法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(JST-RISTEX) 「SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)」 令和 4 年採択(課題 ID:22717204)

「社会的養護経験者(ケアリーバー)の社会的孤立を防ぎ、支援と繋がりながら自立を支える仕組みを創る」プロジェクト

(紹介 HP <https://www.jst.go.jp/ristex/koritsu/projects/13.html>)

(研究代表者) 支援体制開発/マネージメント G.リーダー: 宮地 菜穂子 同朋大学社会福祉学部 准教授

(分担研究者)

アプリ開発 G.リーダー: 辻井 正次 中京大学 教授

福島支援運営 G.リーダー: 安部 郁子 福島大学 特任教授

自立支援運営 G.リーダー: 岩田 正人 名古屋文化キンダーホルト 施設長

★プロジェクト概要

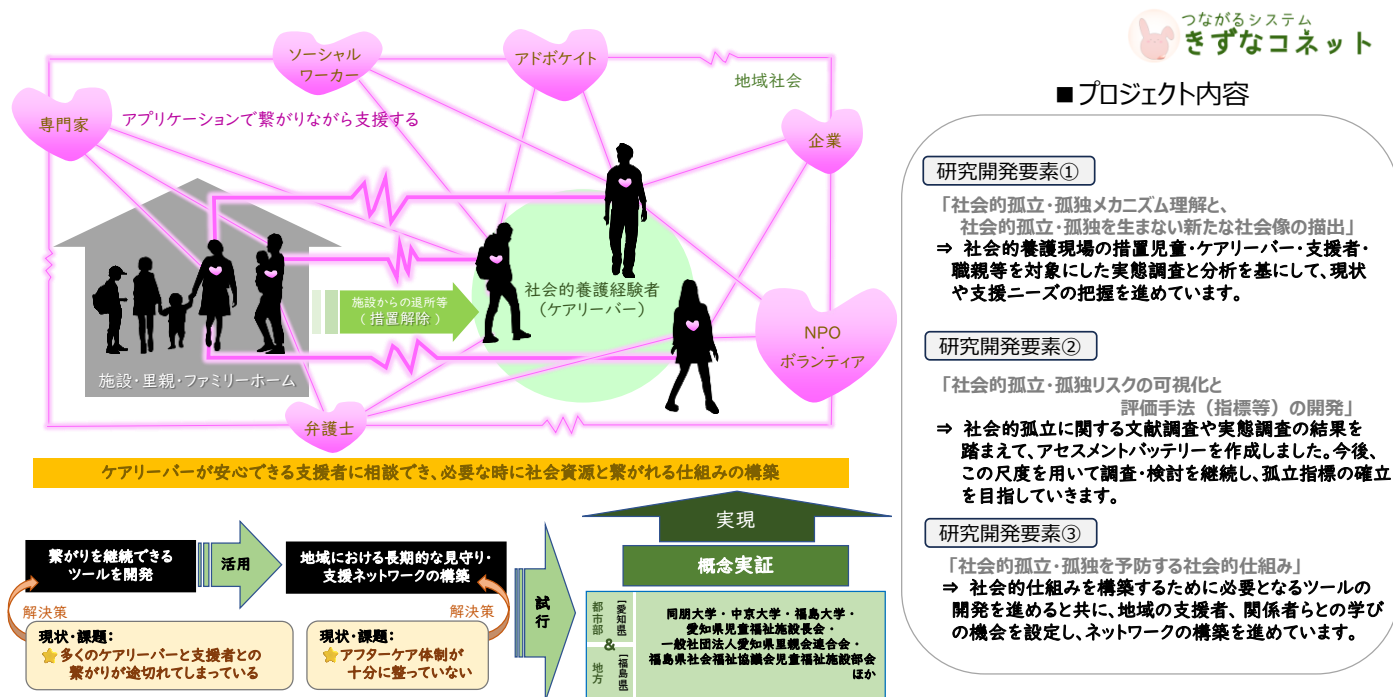
社会的養護経験者が子ども時代に生活を共にした支援者らとのつながりを維持する

児童養護施設などで暮らした子どもの退所後の実態把握を目的とした初の全国調査結果(厚生労働省 2021 年発表)では、施設などのサポートを受けていない者は 5 人に 1 人に上り、孤立している実態や長期的な見守り・支援に向けた課題が明らかになりました。多くのケアリーバーと支援者とのつながりは途切れてしまっています。その主な原因には、施設や里親がケアリーバーの連絡先を知らないこと、アフターケア体制がまだ十分に整っていないことが挙げられます。

社会的養護経験者が支援者となつながら続けられる仕組みを構築し、 インケアからアフターケアへの切れ目ない支援体制を実現する

本プロジェクトでは、この制度の穴を埋める新しい仕掛けとしてつながりを継続できるツールを開発し、社会的孤立・孤独を生まない社会の実現を目指します。具体的には、①自立目前の児童養護施設入所児童、里親委託児童、ケアリーバー、支援者、職親などへの実態調査と分析から社会的孤立・孤独に陥るリスクの可視化と、②生活状況などをチェックする指標など(評価手法)を開発するとともに、孤立と対極にあるつながりを可能とする要素を描出します。並行して、③ケアリーバーと支援者が安全につながり、連絡調整できるモバイルメッセージングアプリケーション(アプリ)を開発します。

①から③まで一体的に実施していく中で、モニターによるアプリ試作品の試行とヒアリングに基づき、アプリ試作品のバージョンアップを重ねながら、都市部と地方の 2 地域において試行し概念実証を行います。そして、ケアリーバーが安心して支援者に相談でき、必要な時に社会資源とつながれる仕組みを構築することが本プロジェクトの最終目標です。



★内容

重要事項: **一次予防**

まずは、**移行期(措置解除直後の新生活が始まる時期)をしっかりと支える**

子ども・若者達の多くは児童福祉から離れた時に支援が途切れ、制度の狭間に落ちてしまう現実があります。この時期(移行期)のつながりの維持は、社会的孤立・孤独の一次予防として重要です。本プロジェクトでは、つながりを継続できるツール(きずなコネット)を開発し、施設や里親家庭のみならず、措置中から地域と繋がるきっかけを与えていきます。そうすることで、地域の支援拠点や社会資源に目を向け、措置解除後に向けて、措置中から調整しようとする意識が高まり、地域や社会を整えるゼロ次予防に繋がっていくことを目指します。

特許出願中

★アプリの特徴

このアプリは、誰でも自由に登録できるものではなく、事前に設定した支援者が、ユーザーを招待する仕組みをとっています。そのため、ユーザーのカテゴリーや権限の管理は、本アプリにおいて安心して使っていただくための重要な位置づけにあります。(ユーザーには「マネージャー」・「支援者」・「離職者」・「ユース」・「こども・若者」の5つのカテゴリーがあります。)

既存のSNS、チャットアプリは不特定多数の相手と容易に繋がれるという便利さがあるものの、オープンソースのチャットツールは“オープンすぎる”ことで、時に思わぬリスクを生じ、プライバシーが守られない事態が生じる可能性があります。

またネット検索すれば簡単に膨大な情報にアクセスできる反面、信頼性の高い情報が否かを個人が判断することの困難や、出会い系サイトや詐欺等によって搾取されるリスクも非常に高い現状があります。

こうした課題を乗り越えるために、子ども・若者と支援者らが**安全に繋がれて自立支援に活用できるアプリ**が求められます。

ポイント1 アプリに入れば、安全につながる！

- ★入所中は、入所児と特定の職員とのSNSでの1:1のつながり(近すぎる距離感)を制限することができます。
- ★措置解除後には、「ユース」は職員(「支援者」)とアプリ内でも1:1で繋がることができます。
(ユース同士、あるいは入所児とユースとで、個人的には繋がりを避けたい、あまり関わらないという場合などに)
- ★他の「こども・若者」・「ユース」から距離をとりながら、「支援者」と繋がりを続けることができます。
- ★措置解除後も、アプリ内で措置中と同様に、関係者とのやり取りを継続することができます。
- ★(双方が希望する場合には)ユースらが退職した職員(「離職者」)とも、繋がりを続けられる可能性が広がります。
- ★入所中から、措置解除後に向けて、地域の支援者と繋がるきっかけを作ることができます。

ポイント2 安心できる確かな情報をキャッチできる！

- ★詐欺などが横行し、正しい情報なのか判断に困ることが少なくありません。アプリに入れば、信頼できる情報を取得することや、困ったことなどを安心できる支援者に相談することができます。
- ★支援者も、各地域で活用できる自立支援関連のさまざまな社会資源に関する情報を入手したり、相談したりすることができ、地域を超えて、関係者らと繋がる可能性が広がります。

ポイント3 生活・メンタルチェックができる！

- ★アプリの中で、生活チェックやメンタルチェックができるので、自分自身の変化を確認できます。
- ★チェックの結果を支援者と共有すると、早めのサポートが可能になります。

★モニターのみなさんと一緒にアプリをバージョンアップ！

本格研究開発期間(2027年3月まで予定)では、モニター参加者(支援者、当事者など)との協働によって、上記などの“社会的養護現場で「あったらいいな」という機能”を盛り込んで、安全に内外をつなぎつつ、地域にある様々な社会資源とつながるきっかけとなる情報を、効率的に提供していけることを目指して開発していきます。興味を持っていただいた皆様のご参加をお待ちしております。⇒ 下記 URL の **きずなコネット HP「お問い合わせ」** から、ご連絡ください。